

● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）3 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

カラングタン（インドネシア）（図中 A）

11 日の噴火で生じた溶岩流の前面から、18 日以降度々崩壊が生じ、岩石が流れ下った。また、18 日には長さ約 1.5 km に及ぶ多くの火砕流が橋や家屋に被害を与えながら海岸に達した。溶岩流と火砕流の影響により、20 日には西山腹の村から 600～1,200 人が避難した。

キラウエア（ハワイ島）（図中 B）

5 日にプウ・オーオー火口底が崩落し、同時に発生した群発地震の後、東側の火口列地域（東リフトゾーン）沿いに長さ 2.3 km の亀裂が開いた。亀裂からは溶岩が断続的に噴出し、溶岩流が生じた。火山ガスの放出もみられ、6 日には二酸化硫黄の平均放出率が 1 日あたり 10,000 トンと高い値となった。

9 日の夕方以降は溶岩流の流出及び亀裂からの噴出が衰え始め、二酸化硫黄の放出率も 10 日以降は亀裂が生じる前数か月に観測していた値まで低下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

